

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第88号

平成26年 1・2・3月



薬師如来坐像(三重・見徳寺)

特別陳列

おん祭と
春日信仰の美術

～1月19日(日)
西新館

お水取り

2月8日(土)～
3月16日(日)
西新館

特集展示

新たに修理された文化財

～1月19日(日) 西新館

いにしへの東北

～豊岡遺跡と平泉～

2月8日(土)～3月16日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催
青銅器館

武家のみやこ 鎌倉の仏像 — 追真とエキゾチシズム —

4月5日(土)～6月1日(日)

治承四年(一一八〇)、平家の軍勢によって奈良の地は焼き討ちされました。このとき、東大寺の再建に心血を注いだのは大勧進俊乗房重源であり、檀越として復興事業に多大な貢献をなしたのが、新たな覇者として登場し、鎌倉に幕府を開いた源頼朝でした。

奈良の寺々において仏像の再興造立に活躍したのは、重源が重用した康慶・運慶・快慶ら慶派の仏師たちですが、彼らの仕事の場合は奈良にとどまらず、鎌倉や東国にも広がったのです。それは頼朝やその配下の御家人たちが、自らが建立した寺院の造仏に、競って彼ら慶派仏師を起用したことによるものです。

重源は、中国・宋の仏教美術を移入することに積極的でした。このため慶派の作品にも宋の影響が認められます。しかし新たに政権を握った武家の都として重きをなした鎌倉には、蒙古軍の侵攻を逃れて日本に亡命した中国僧たちによって、より直接的に宋風文化が伝えられたため、仏教造像の場においても中国風の作品が陸続として生み出されたのです。

昭和三年(一九二八)に開館した鎌倉国宝館には、この地域の貴重な作品の数々が寄託・所蔵され、鎌倉や東国の仏教美術、わけても仏像の全貌を把握することのできる優れた作品が常時展観されています。

本展は、鎌倉国宝館に寄託・所蔵される仏教彫刻と仏画の優品に加え、近隣の寺院からも尊像の出陳を賜り、それらを一堂に会することによって、奈良から生まれ、鎌倉で結実した仏像の諸相の展観を目ざすものです。関東の外においてまとまって展示される初の試みであり、とりわけ鎌倉時代彫刻発祥の地ともいえるべき奈良で公開されることの意義は大きいと考えます。この機会に多くの方々のご観覧を希望するものです。



◎上加重房坐像(明月院)



十一神将立像のうち戌神(鎌倉国宝館)



阿弥陀如来立像(淨妙寺)

【表紙写真解説】

薬師如来坐像

木造 漆箔
飛鳥時代(七世紀)
三重 見徳寺

三重県の旧上野市(現、伊賀市)東郊に所在する曹洞宗寺院見徳寺に客仏として伝来した。クスノキを材と思われ、大半を一材から彫成し、内刳は行わない。

面ながの顔に配された細い目と小ぶりの鼻、上唇の薄い華奢な口が、独特の印象を形づくる。着衣の衣文はさながら板を列ねたようで、きわめて古風である。脚部の正面に表された大きな「品」字形の衣文も、飛鳥時代の作例に類出する特徴的な表現である。

すでに指摘のあるように、本像に最もよく似た像容を示すのが、奈良・法隆寺に伝わる六観音像と呼ばれる菩薩立像(重要文化財、飛鳥時代)である。上記した顔の造作も酷似するし、六観音像の背面裾部にも大きな「品」字形衣文が見える。両者の造立にあたった工房を同一とみるための根拠となるだろう。

飛鳥時代(七世紀後半)の作と考えられ、上代彫刻史上に占めるその価値は大きなものがある。

岩田 茂樹(当館学芸部部長補佐)

◆施設改修工事にとまなう東新館の休館について◆

当館では、文化財保管施設の防災・防犯機能をこれまで以上に充実させるため、ただいま大規模な改修工事をおこなっています。これにとまなう、平成26年4月4日までは東新館を一時休館しております。

この期間に開催の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」および特別陳列「お水取り」は、東新館ではなく西新館が会場となりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【特別展示】

正倉院宝庫の瓦

西新館2階休憩室

現在、正倉院宝庫は屋根の葺き替え等の改修工事を行っております。昨年秋の第65回正倉院展では、この工事で下ろした宝庫の瓦の一部を展示しておりましたが、宮内庁正倉院事務所のご厚意により、春まで展示期間を延長することになりました。奈良時代から大正時代に至るまで様々な時代の瓦がご覧いただけます。特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」、「お水取り」のご観覧に併せてお楽しみ下さい。
展示期間:～1月19日(日)、2月8日(土)～3月16日(日)



東大寺正倉院銘軒丸瓦
江戸時代(天保期)